

平成 24 年度 学校（住吉校舎）評価アンケート結果について

先日は、学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。生徒・保護者の学校評価アンケートの結果についての概要（統計的な内容）をお知らせします。評価は各項目によっても様々ですが、寄せられた結果につきましては、学校として真摯に受け止めたいと存じます。

併せて、アンケート結果についての学校としての解説及び次年度に向けた改善策（傍線表示）、関係者評価委員によるコメント等につきましても同時に掲載しています。

<アンケート結果の表示方法> 以下の両表記を併用している。

A 点数表示 ①よくあてはまる：4点 ②ややあてはまる：3点 ③あまりあてはまらない：2点
④まったくあてはまらない：1点として、平均点を数値化したもの。

B 分布表示 上記①～④及び⑤（わからない）を%表示したもの。

※全体として、あるいは前年度や他学年と比べて、評価の高い項目を「赤」、低い項目を「青」で表示している。また、四捨五入の関係から、「比較」等で見かけ上数値が合わない項目がある。

■ 生徒アンケート 回収率 96%

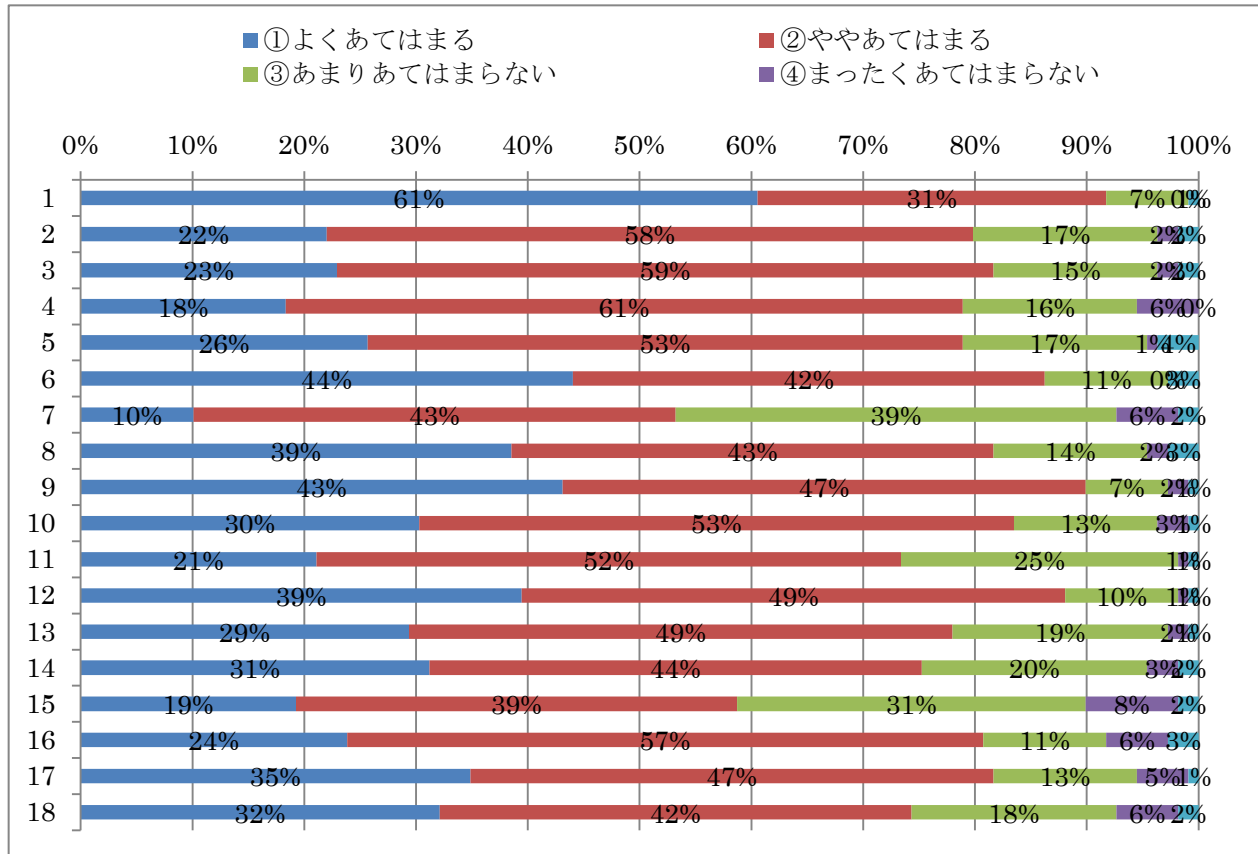
<前期課程 18 項目及び後期課程 15 項目>

	1年	2年	3年	4年	12年 平均	11年 平均	昨年 比較
Q1.自分は、楽しい学校生活が送れている。	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	0.0
Q2.あいさつができています。	3.0	3.2	3.2		3.2	3.1	0.1
Q3.毎日の清掃がきちんとできています。	3.0	3.2	3.0		3.1	3.4	-0.3
Q4.時間を守り、きめられた服装や正しい言葉遣いができています。	2.9	3.1	3.0		3.0	2.8	0.2
Q5.授業は、わかりやすい。	3.1	2.7	2.9	2.9	2.9	3.0	-0.1
Q6.授業の内容や教え方を工夫している先生が多い。	3.3	2.5	3.0	2.9	3.0	2.4	0.5
Q7.授業では、疑問やわかりにくいところが質問しやすい。	2.6	2.3	2.5	2.5	2.5	2.5	0.0
Q8.学校には豊かな心や人の生き方について考えたり学んだりする場がある。	3.2	2.6	2.9	2.7	2.9	2.7	0.2
Q9.学校には命や人権の大切さについて考えたり学んだりする場がある。	3.3	2.8	3.0	2.5	2.9	2.7	0.2
Q10.Kobe・プロジェクト(総合学習)は、自分にとって大切な学習である。	3.1	2.6	2.7	2.4	2.7	2.8	-0.1
Q11.自分の考えをまとめたり発表したりする機会に、しっかりと取り組んでいる。	2.9	2.8	2.9	2.8	2.9	3.4	-0.5
Q12.地震や火災などが起こった場合、避難方法などどうすればよいかを教えてもらっている。	3.3	3.3	3.3	3.0	3.2	3.1	0.1
Q13.両校舎合同の学校行事では、よく頑張ることが出来た。	3.1	2.8	2.5	2.8	2.8	3.5	-0.7
Q14.学校行事は、自分自身が成長する機会になっている。	3.1	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	0.1
Q15.生徒会活動や学級活動、委員会活動・自治活動には、積極的に参加し協力している。	2.7	2.6	2.5	2.7	2.6	2.8	-0.2
Q16.先生は、的確に自分を評価してくれる。	3.0	2.7	2.8	2.9	2.9	2.7	0.2
Q17.先生は、いじめや生活・学習の問題について対応してくれる。	3.1	2.6	2.8	2.6	2.8	2.9	-0.1
Q18.学校の施設・設備が充実している。	3.0	2.8	2.6	2.1	2.6	2.8	-0.1
	3.1	2.8	2.9	2.8	2.9	2.9	0.0

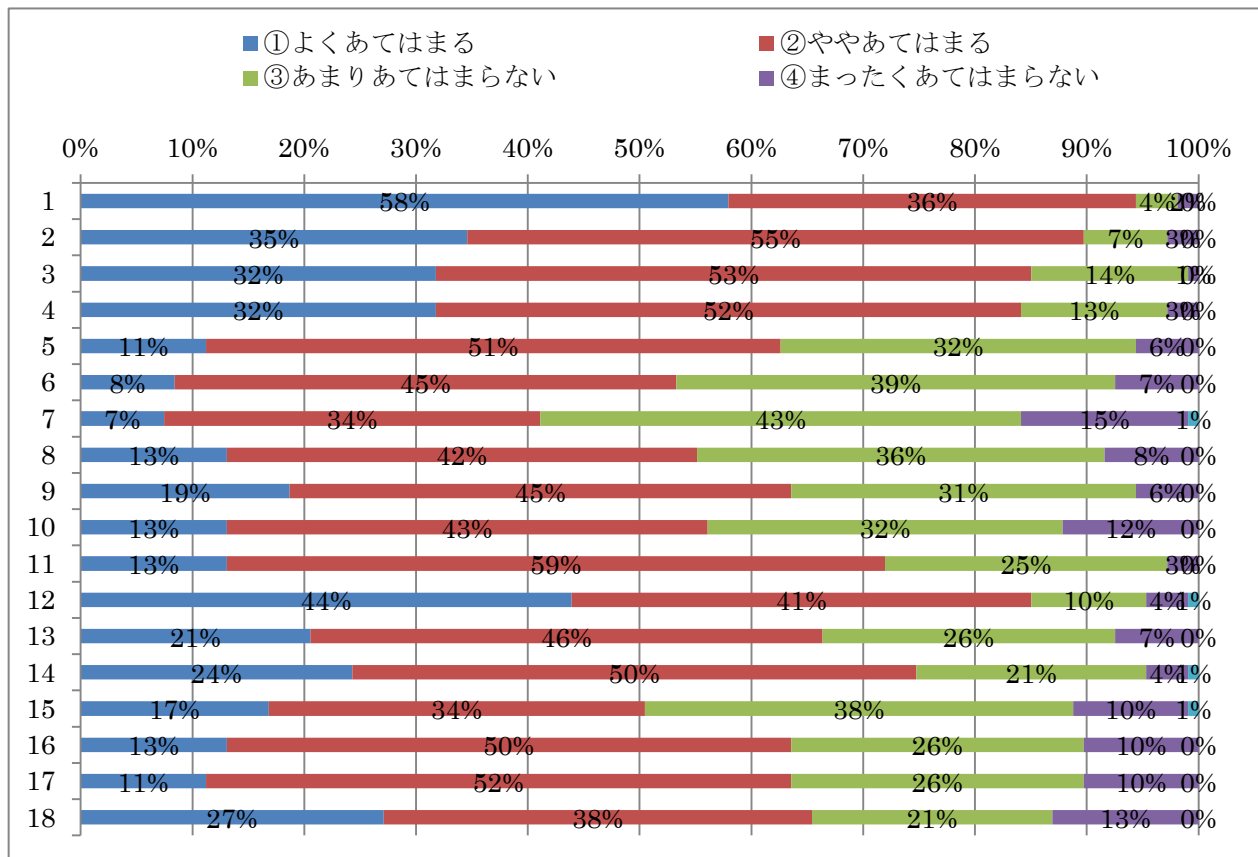
<後期課程 3 項目> Q2, 3, 4 を入れ替えている

	4年
Q2.学校のルールや社会的マナーを守ろうとしている。	3.3
Q3.将来の進路について、考えるようになった。	3.3
Q4.神戸大学Day等を通して、神戸大学を身近に感じるようになった。	2.7

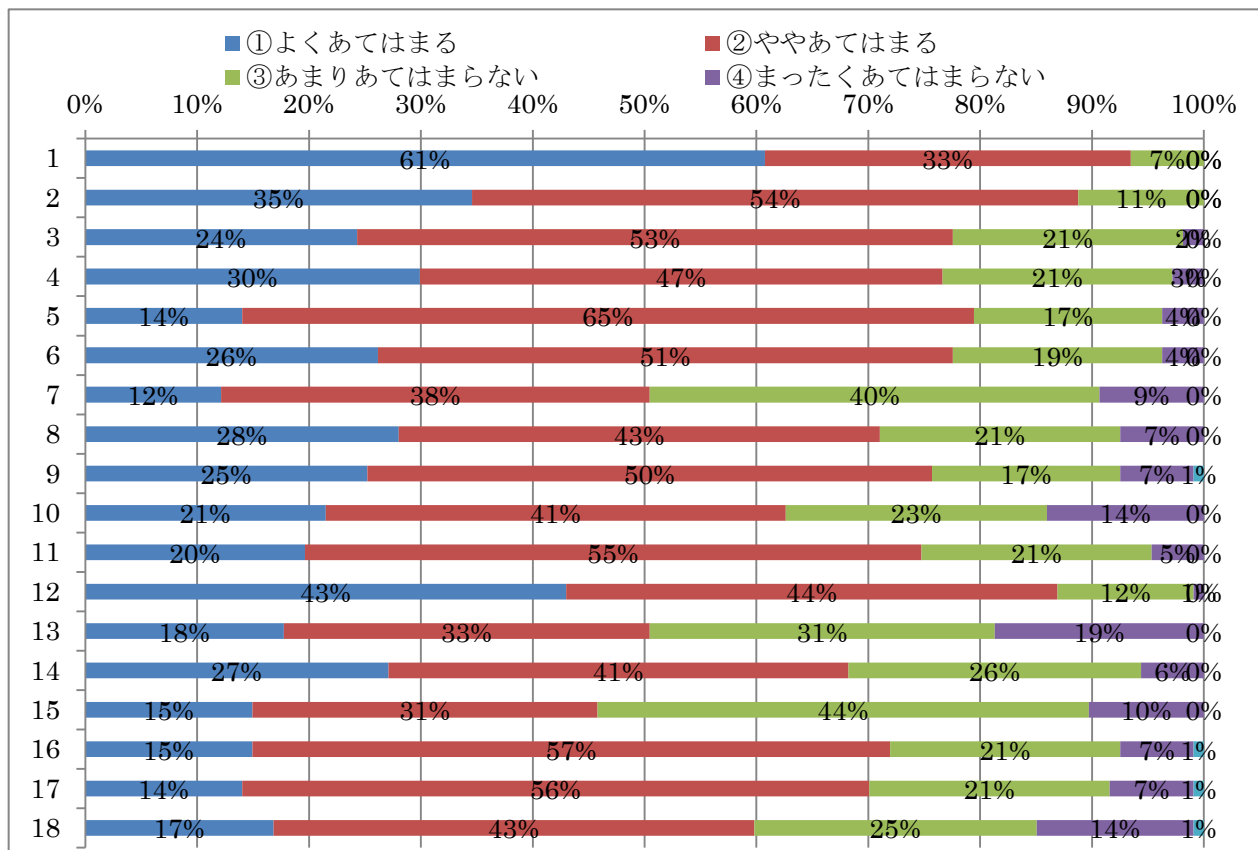
< 1年 >



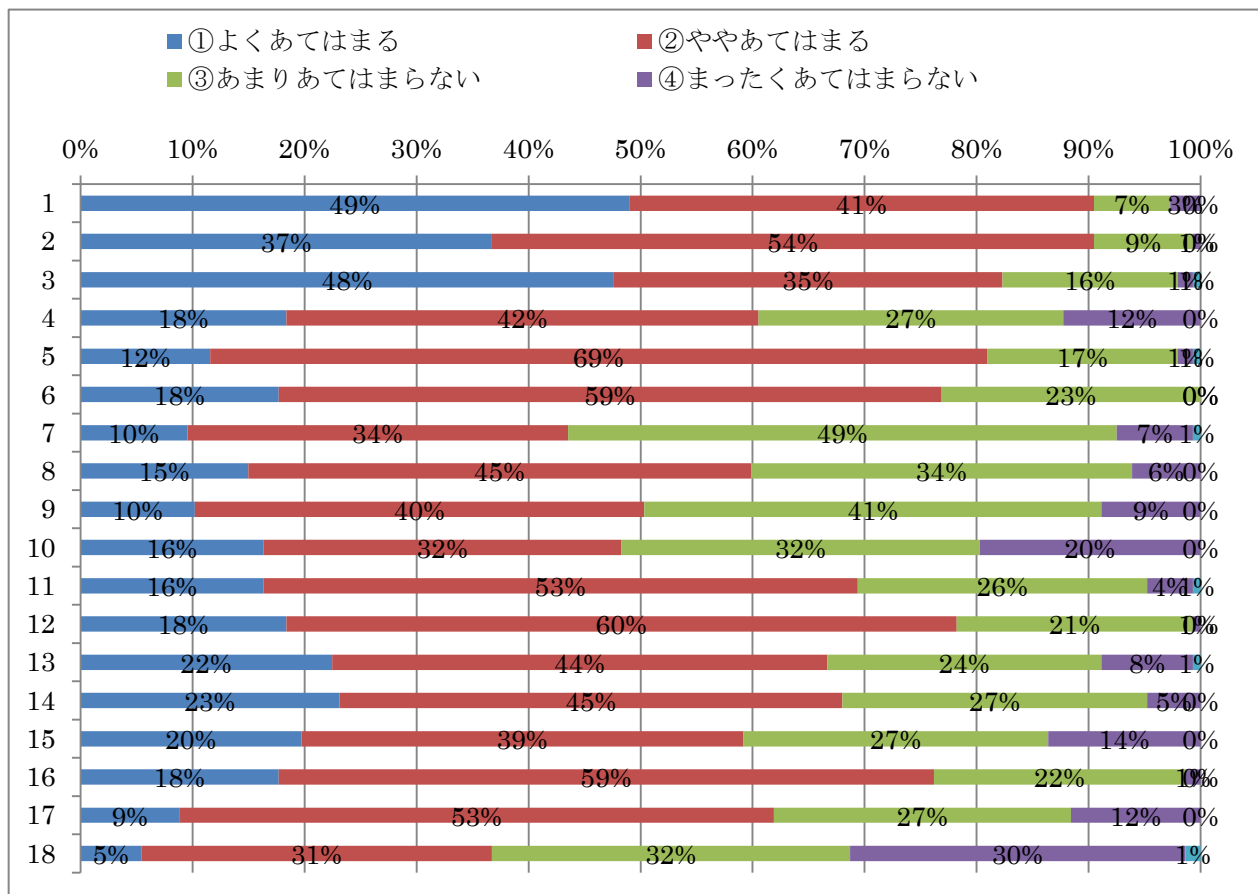
< 2年 >



< 3年 >



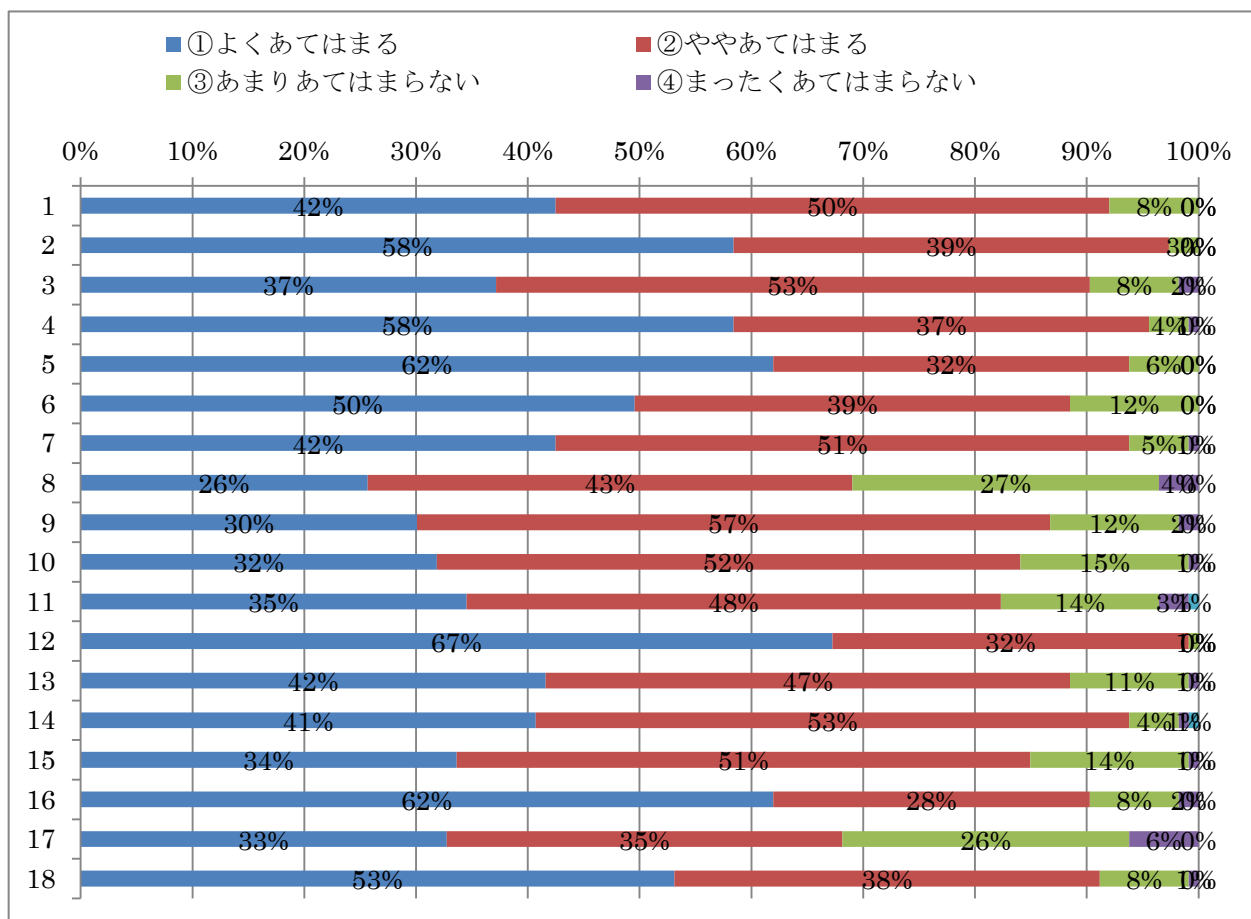
< 4年 >



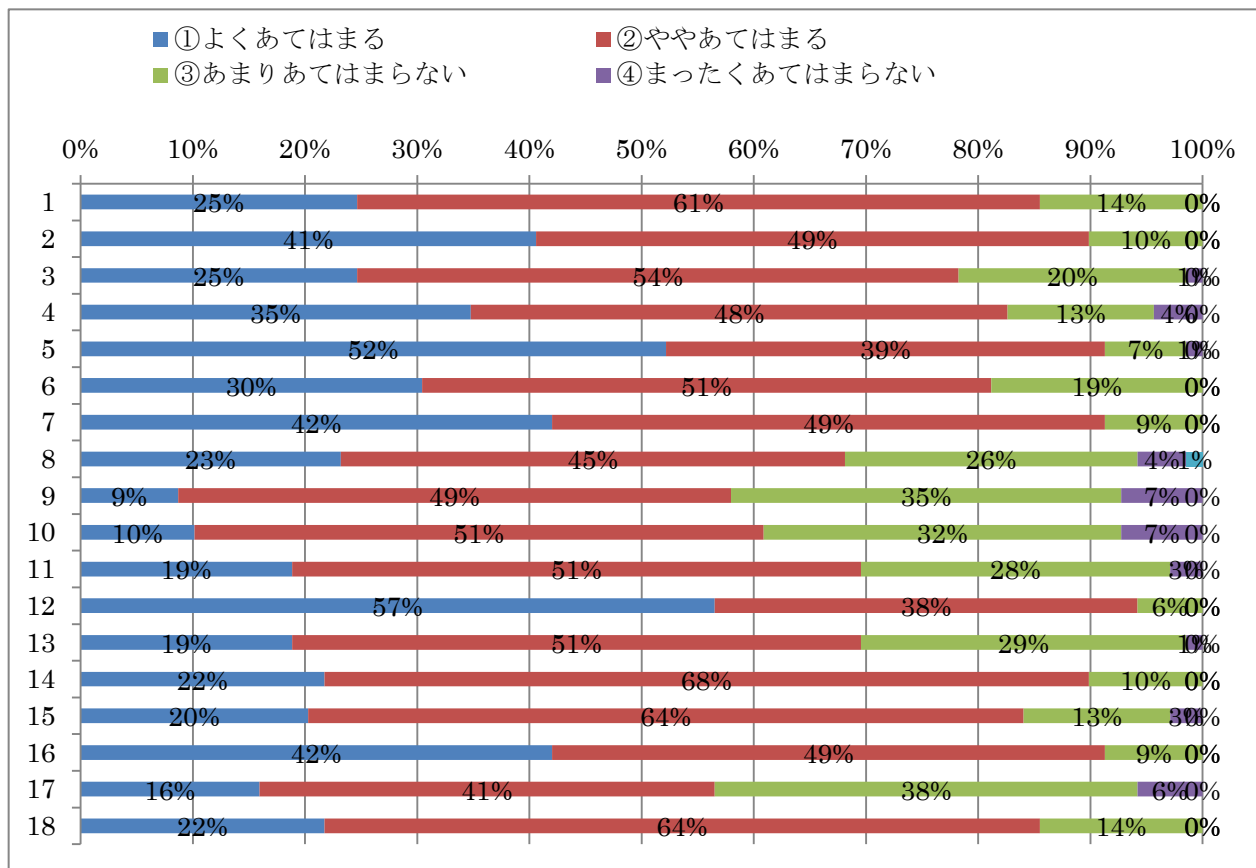
■ 保護者アンケート 回収率 76%

	1年	2年	3年	4年	12年 総計	11年 総計	昨年 比較
Q1.学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく保護者に伝えている。	3.3	3.1	3.1	3.2	3.2	3.3	-0.1
Q2.学校の教育方針に賛同している。	3.6	3.3	3.2	3.4	3.4	3.3	0.1
Q3.学校の情報は、通信・ホームページ・メール配信や懇談会などでよく伝えられる。	3.3	3.0	3.0	3.1	3.1	3.1	0.1
Q4.学校は、子どもたちが安心して学べる環境づくりをしている。	3.5	3.1	3.2	3.4	3.3	3.4	-0.1
Q5.学校は、体験活動をはじめ子どもたちが主体的に取り組む特色ある教育活動を行っている。	3.6	3.4	3.3	3.3	3.4	3.1	0.3
Q6.学校は、自立的に生きる力を培い、創造性を伸ばす教育に取り組んでいる。	3.4	3.1	3.1	3.1	3.2	3.5	-0.3
Q7.学校では、参観ウィークや文化祭・合唱コンクールなどの学校行事の参観がしやすい。	3.4	3.3	3.1	3.3	3.3	3.3	-0.1
Q8.両校舎合同の学校行事は、生徒のためになったと思う。	2.9	2.9	2.5	3.0	2.8	3.0	-0.2
Q9.教員は、わかる授業・生徒の学習意欲を引き出す授業に努めている。	3.2	2.6	2.7	3.1	2.9	3.4	-0.5
Q10.教員は、家庭連絡や保護者との意思疎通を、きめ細かく行っている。	3.2	2.6	2.7	2.7	2.8	2.9	0.0
Q11.教員は、子どもの悩みや心身の健康についてよく気を配り、子どものことを理解しようと努めている。	3.2	2.9	2.7	2.9	2.9	3.0	-0.1
Q12.教員は、保護者の来校や電話に対して、ていねいな対応をしている。	3.7	3.5	3.3	3.5	3.5	2.8	0.6
Q13.教員は子どもの誤った行動に対して適切な指導をしている。	3.3	2.9	3.0	3.1	3.1	2.8	0.3
Q14.教員は、子どもの努力や能力を適切に評価している。	3.3	3.1	3.0	3.2	3.2	3.0	0.2
Q15.子どもは、あいさつ・言葉遣い・服装など、生活の基本が身に付いている。	3.2	3.0	3.1	3.2	3.1	3.5	-0.4
Q16.子どもは、学校にたくさんの友だちがいると言っている。	3.5	3.3	3.2	3.3	3.4	3.1	0.3
Q17.子どもは、生徒会や委員会活動に積極的に参加したり協力したりしている。	2.9	2.7	2.7	2.9	2.8	3.1	-0.3
Q18.この1年間で、子どもなりに人間的に成長したことが感じられる。	3.4	3.1	3.2	3.3	3.3	3.0	0.3
	3.3	3.1	3.0	3.2	3.2	3.1	0.0

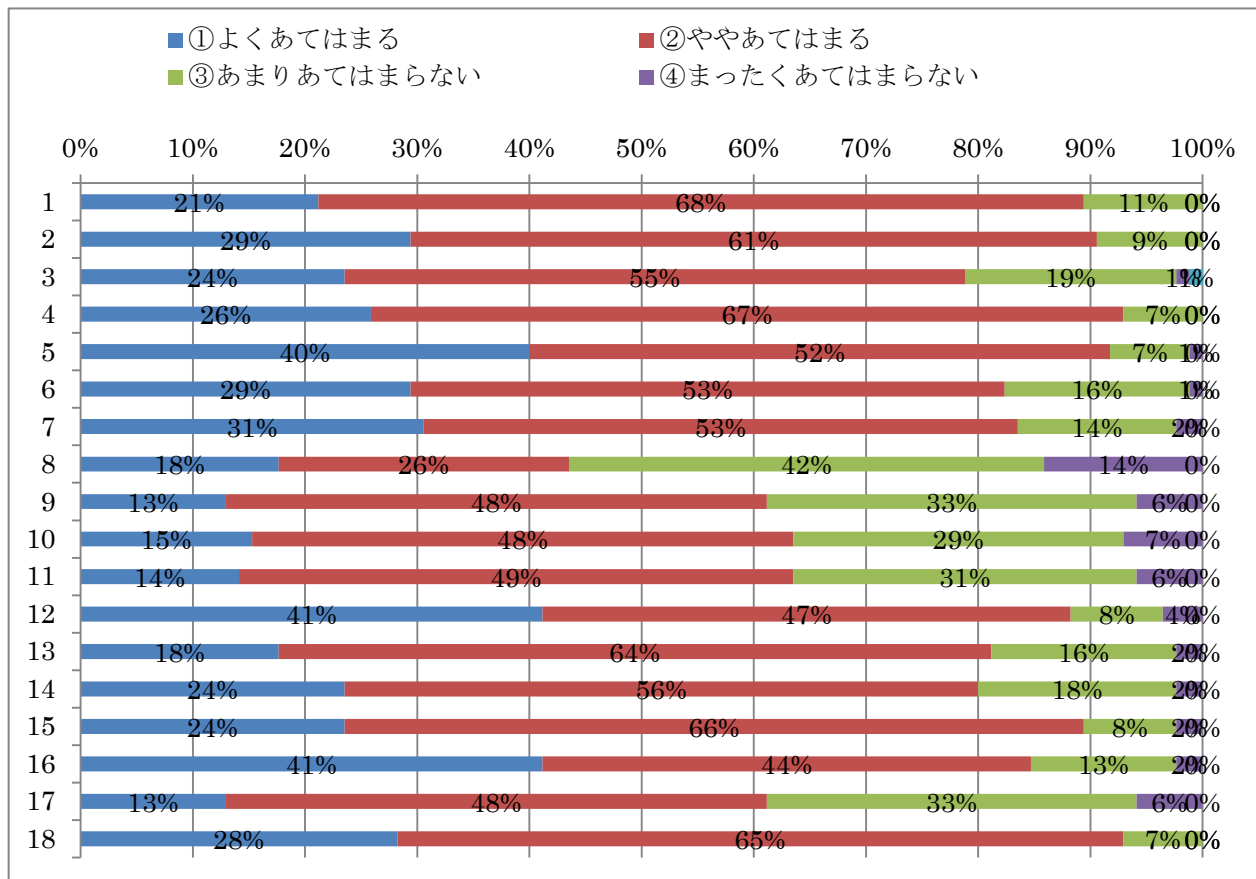
< 1年 >



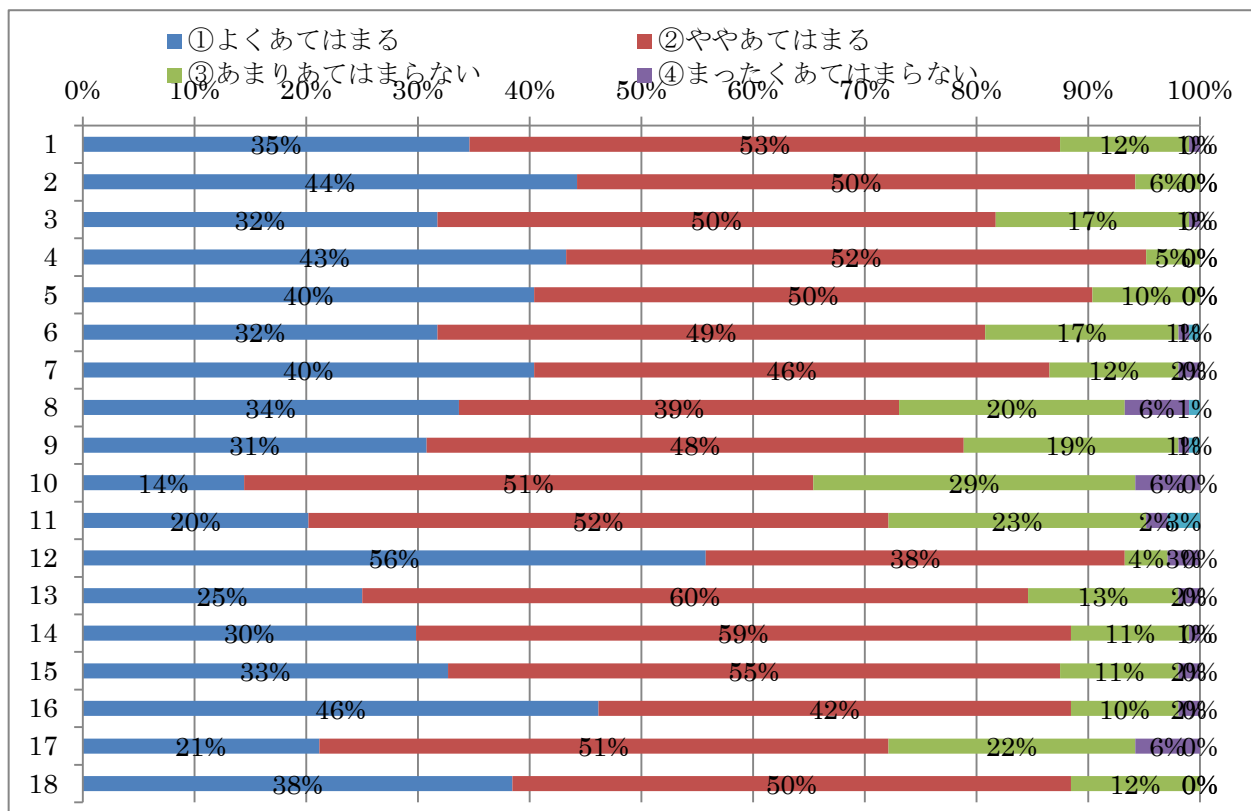
< 2年 >



< 3年 >



< 4 年 >



■ 平成 24 年度「学校自己評価」まとめ

(1) 評価アンケート総計について

- ・生徒 Q1 保護者 Q1, 2 等の学校評価の総論的部分については高い評価を得ています。
- ・保護者・生徒アンケート評価総計では、昨年度と比べて変動が見られませんでした。ただ、全国的に学年進行（生徒の成長）と共にアンケート評価（数値）はやや下がる傾向にあるので、実質的には、昨年度よりわずかに上昇しているかもしれません。

(2) 記入者別評価について

< 生徒評価について >

全体として生徒は学校生活を楽しく過ごしており、モラル・マナー面でも概ね肯定的評価が見られました。項目別では、Q1, 2, 12（後期 3）で高い評価、Q7, 15, 18（10,）等で低い評価になっています。課題としては、次の事項等が挙げられます。

- ①自治活動への参加意識がやや低く（-0.2）なっているのは、今年度、諸行事に対する準備時間を十分に保障できなかったことや全員参加型の運営方式から一部生徒の運営に変更されたことも影響していると思われます。次年度、諸行事の準備期間を保障する等の改善を図ります（以下、下線部は改善策等）。
- ②Kobe プロジェクトへの評価が高学年ほど下がるのは、「自由研究」的発想の延長線上の実践には限界があると判断しています。次年度は卒業研究がスタートすることもあり、「リサーチリテラシー入門」を必読文献に指定する等、3, 4 年課題研究においても少し高度なレベルを求める予定です。
- ③学校の施設設備への充実感については、1 年（3.0）が校舎改修後の環境を素直に評価しているのに対し、4 年（2.1）になると対外試合等で他高に行った際に、敷地・施設（規模、食堂・購買等）面などで不備が多いと感じているようです。附属住吉小閉校後も視野に、生徒の福利に関する設備改善を図ります。

- ④一部学年で、Q5, 6, 8, 16 等、授業をはじめとする項目評価が低いのは大きな問題で、次年度抜本的な解決を図るための方策を講じたいと考えています。
- ⑤各学年で授業に関して、質問がしにくいとの評価結果が出ています。授業改善策については後述します。また、バス通学、クラブ活動、生徒の福利厚生、前期課程生に対する進路指導（含：インターンシップ）、国際教育等についての質問項目がなく、アンケート項目を再検討する予定です。

<保護者評価について>

全体として保護者は学校の教育方針に賛同しており、特色ある学校づくり、保護者への対応、生徒指導面でも一定の肯定的評価を得ています。項目別では Q2, 4, 5, 12, 16, で高い評価、Q8, 9, 10, 11, 17 でやや低い評価になっています。

保護者評価も一般に学年が進行するとともに少し下がる傾向にありますが、1年が高く、4年もやや高い傾向になっています。3年は合同行事の評価が低いほかは、大きな差異は見られません。

昨年度との比較では、総計は変わらないものの項目によって上下変動が目立つ傾向が見られます。Q16「たくさんの友達がいる」Q18。「この1年間で、子どもなりに人間的に成長したことが感じられる。」では、0.3の上昇がみられました。その他の項目については各論部分で後述します。

学校としては、保護者会の持ち方をPTAと共催にする等の改善を図り、保護者と学校が情報をより共有できるよう工夫したいと考えています。

(3) 評価アンケート結果、各論について

A 授業の工夫について

前年度アンケートとの比較では、生徒の「授業の工夫」に対する評価が上昇(0.5)しているのに対し、保護者評価は逆になっています。原因はよくわかりません。

授業の充実が学校の「中心中の中心」課題です。また授業中の質問対応に加え、生徒の声をよく聞くためにも、遅ればせながら、「授業アンケート」を学校として制度化し、全教員が年度途中（春学期終了頃）に実施します。なお、授業のアンケート結果については、担当教員が解説や改善策を考えた上で、生徒に還元する予定です。

B 自主的学習について

一方、自主的な学習についての評価（生徒）は昨年度に比べ下がって(-0.5)います。現在やや曖昧になっている本校伝統のリーダー学習・協同学習について、学年や教科の特色をふまえつつ、どう継承するかについて検討の上、再建策を講じたいと考えています。

C 自主活動について

自主的な教育活動全般についての評価は低くありませんが、生徒会活動等の自治活動については生徒・保護者の評価が低下(-0.2~3)しています。次年度、生徒の手による諸行事（文化祭等）の充実を図ります。また、クラブへの顧問配置を増やすと共に、アンケートの質問項目を設け、意見を集約します。

D 明石校舎との合同行事について

両校舎の教員間の信頼関係は高くなっていますが、交流行事に代わって、本格的に実施した合同行事については、生徒・保護者評価ともに高くありませんでした。各校舎の独自行事の良さが消えてしまった面もあるかもしれません。次年度、開催場所、スタイル等も含め改善策を講じたいと考えています。

E 生活指導面について

生徒の評価は低くはありませんが、「清掃」についてやや下がっています。保護者の評価は昨年度に比

べ、「あやまった行動に対する対応」(0.3)は上がっていますが、生徒生活の基本についての評価(-0.4)が下がっています。全体として大問題はないと考えていますが、重点項目(ケータイ、トイレ使用等)を決め、組織的な指導を行いたいと思います。また個人差も大きいので、個別対応の強化を図ります。

F 進路指導について

後期課程生のみでの評価結果ですが、進路指導に関しては高い評価を得ています。進路通信(30回以上発行)の影響もあると思われます。一方、前期課程生に対してのアナウンスが不十分との声もあり、次年度は前期課程でもアナウンスを強化すると共に、進路に関する質問項目を設けます。また、進路指導の基盤は、何といても授業を中心とする学力の保障です。生徒集団の学力幅は大きいですが、後期課程では英語・数学の少人数授業、習熟度別授業を拡大すると共に、個々の生徒に応じた学力保障対策の充実を図ります。

G 教員の生徒・保護者対応について

保護者はTEL等来客対応等がよくなった(0.6)と評価しています。「教師が生徒を認めている」についても生徒・保護者とも0.2上がっています。しかし、生徒・保護者の悩みや要望は多種多様であり、意思疎通を重視しながら、丁寧に対応したいと考えています。

【関係者評価委員より】

2月20日、学校の良い点をふまえた上で、次年度への課題を中心にご意見をいただきました。

- アンケート結果は、集約の労も含め貴重なものなので、生徒・保護者にも情報公開した上で、学校の改善のために役立ててほしい。
- グローバルキャリア人の定義が保護者である我々に伝わってこない。また、後期課程に進む生徒をどう教育するのか指針を出せていないように感じる。
- 生徒アンケートから授業がわかりにくいという解釈すら出来る。どの教科でどれくらい・・・などの追求があるのではないか。
- アンケートの結果を見ると、合同でやっているがゆえに行事の値打ちが下がっているように思う。例えば順位付けを行って対抗意識をさらに出させるとか、もっと工夫すべきではないか。
- 中等教育学校は神戸大学と附属学校が、どんな生徒を育てようかと練られた状態で誕生したのではなく、行政主導でできたことが大きな流れとしてある。それ故、2年後の1期生が卒業実績をどう出すかによって、この学校の前途が決まると言える。学校経営は学校が示す教育論と生徒・保護者の要求のダブルスタンダードで成り立つ。本校もグローバルキャリア人の育成で行くのか、進学実績を上げるのか、両方で行くのか、その大元を早急に固める必要がある。
- 中等教育学校ができる時の説明会で、最初大学から言われたのは、国立は進学校になってはならない・・・だった。その後船寄先生から「国立大学への進学を目指します」の言葉で安心した覚えがある。
- 子どもたちに学校で過ごす時間が大切だと感じるようにさせてほしい。保護者にも全員が理解して、同じ方向へ向かっていく、コンセプトがしっかりしていること、そのためにも学校の方針を毎年毎年言っていくのがよいのではないですか。
- 保護者として言うなら、先生方も向いている方向がそれぞれ違うように感じる。バランスが悪いと言うか・・・。部活も含めて学校生活を大切にしたい。先生方の言われたことが、家での話題になるなど、子どもの発言に出て来て欲しい。